

コンサルタントの現場から

第103回

(株)ジェムコ日本経営 高橋 功吉

「コンサルタントの現場から」のコラムは、コンサルタントがコンサルティング等の現場で見聞きしたことの中から、参考になるのではないかと四方山話を綴ったものです。

ROAの大切さ

ROA(総資産利益率)は経営推進の基本

経営の基本は、資本金や借入金等で調達したお金を事業に必要な資産に換え、それを使っていかに

新たなお金を生み出すかということだ。どのようにしてお金を調達したのかを表すのが貸借対照表(B/S)の貸方で

あり、そのお金をどのように使っているかを表すのがB/Sの借方ということになる。総資産利益率

(Return on Assets, ROA)は、これら資産を使ってどれだけ利益を出したかを示しているということであり、まさに経営推進の基本を示した指標と言える。

すなわち、ムダなお金の使い方をせず、真に必要な資産だけに税金を使い、それら資産を活用していかに多くのお金を生み出しているかを示している指標と言えるからだ。



<執筆者プロフィール>

高橋 功吉

(たかはし こうきち)

(株)ジェムコ日本経営 常務理事 グローバル事業担当

大手家電メーカーにて、海外経営責任者などの要職を歴任後、ジェムコ日本経営に入社。2007年執行役員、2011年取締役、2015年6月より現職。上場企業経営トップおよびボードメンバーへの顧問型経営支援をはじめ、グローバル戦略の構築から、製造現場の現場力向上、品質革新など、経営全般にわたり幅広く活躍している。実践に裏打ちされた「わかりやすい」コンサルティングが身上。「ものづくり経営入門」(日経BP)他、雑誌や媒体への執筆、講演も多い。

主な資格は、ICMCI(国際公認経営コンサルティング協会)認定コンサルタント、公益社団法人全日本能率連盟認定マスターマネジメントコンサルタント、経済産業大臣登録中小企業診断士

ROAを良くするには、まず、分母で

ある資産をスリムにすることが大切だ。少ない元手で多くのキャッシュを生み出すのが経営だが、そのためにはお金を生まないような資産にしないようにする必要がある。多大の在庫にしてお金を寝かせていたり、ほとんど動いていないような設備にしておくようなことはあってはならないということだ。

企業によって色々なKPIを設定されているが、キャッシュフロー経営に徹した企業では、これを意識して推進すべき事項が明確にされている。

資産は効率の良い使い方になっていく。まず、資産をいかに効率の良い使い方をするかという視点では、売掛債権回転日数や在庫日数をどこまで短縮できたか、すなわち、「材料を購入したら、すぐに製品にして販売

し、早くお金に換える」ことで運転資金の圧縮を図り資金を捻出するということになるのだが、これを推進するために、売掛債権回転日数や在庫日数をKPI(重要業績評価指標)として管理したりする。また、固定資産を有効に活用できているか、真にキャッシュを生み出す使い方にできているかという視点から、遊休設備がないかを管理したり、設備の稼働率をKPIにしたリ、また、固定資産回転率をチェックしたりする。

総資産回転率と売上高利益率は、利益/総資産で示されるが、これは、売上高/総資本(総資産回転率)×利益/売上高(売上高利益率)の2つに分解して掛け合わせたものと表現できる。このように表現すると、いかに資産回転率を上げるか、また、利益率を上げるかということになる。

売上はどの企業でも管理されているが、総資産回転率を上げ、利益を拡大するには売上を上げることが大切だ。それだけに売上がどれだけ上げることができ

たかは大切なKPIと言える。また、利益を上げるといことは、材料や調達の合理化推進や、物流費や販促費の削減や効率運用と共に、儲かる商品の拡大、儲からない商品の見直しといった機種構成の良化に向けた取り組みや、付加価値の高い商品の開発も大切だ。また、生産性の向上取り組みや諸経費が真に有効な使い方にできているかといった確認も大切だ。

また、子会社への投資回収管理も大切だ。実際、子会社で資金繰りが苦しくなったために、増資や子会社への貸し付けで対応ということがある。そうすると、子会社への投資の回収はより厳しくなる。すなわち、投資の回収管理という視点からも、低いROAでは投資の回収は進まないということになる。

各社で色々なKPIを設定して管理されているが、利益関係についての管理はどの企業もできているが、キャッシュフロー経営という視点から管理すべき事項が抜けている例が多い。特に、真に生き残るための視点、また、その資産を使ってどれだけお金を生み出すことができるかという視点から管理すべき事項が抜けているか、という視点は経営の基本であるだけに抜けないように管理したい。

また、子会社への投資回収管理も大切だ。実際、子会社で資金繰りが苦しくなったために、増資や子会社への貸し付けで対応ということがある。そうすると、子会社への投資の回収はより厳しくなる。すなわち、投資の回収管理という視点からも、低いROAでは投資の回収は進まないということになる。

また、子会社への投資回収管理も大切だ。実際、子会社で資金繰りが苦しくなったために、増資や子会社への貸し付けで対応ということがある。そうすると、子会社への投資の回収はより厳しくなる。すなわち、投資の回収管理という視点からも、低いROAでは投資の回収は進まないということになる。

また、子会社への投資回収管理も大切だ。実際、子会社で資金繰りが苦しくなったために、増資や子会社への貸し付けで対応ということがある。そうすると、子会社への投資の回収はより厳しくなる。すなわち、投資の回収管理という視点からも、低いROAでは投資の回収は進まないということになる。

日本での相続、不動産、介護問題のご相談・解決のお手伝いをさせていただきます。

お気軽にご相談ください

事務所: 東京都中央区京橋2-5-22 キムラヤビル3階
電話: 03-3564-5555 FAX: 03-3564-6559
E-mail: ichizo.okada@tiara.ocn.ne.jp



弁護士 岡田 一三
東京弁護士会所属

海外にお住まいの日系の皆様のお手伝いを30数年行っています。皆様がタイにいながら問題の解決ができます。

相談
無料

事案解決
成功報酬

<http://japanese-law.com>